

また、非常時のバックアップ施設を定めていないと回答した6市町のうち、5市町では地域防災計画やマニュアルには位置付けられていないものの、バックアップの候補となる施設をリストアップしており、残る1町は地域防災計画の見直しの中で定めることとしております。

ドクターヘリの導入について

来年度に導入を目指しているドクターヘリは、平成24年12月を目前に運用を開始する予定となりました。ドクターヘリ導入により、山間部や過疎地域を多く抱える本県の医療体制がさらに充実されることと期待しております。

平成20年の県内の救急車による搬送体制は、救急隊出勤から医療機関収容まで30分以上を要した割合が44.2%と高く、60分以上を要した場合も3.4%となっております。ドクターヘリが導入されれば、県内のほぼ全域を30分以内でカバーし、救急現場での専門救急医による迅速な治療が可能になることから、救命率の向上が期待されているところと見られます。

また、このたびの大震災においても、一刻を争う重症患者の治療や搬送に、全国から駆けつけたドクターヘリが大きな威力を発揮したことは今さら言うまでもありません。

こうしたドクターヘリの有効性に加え、平成19年度の救急車による搬送実績から推計した本県のドクターヘリの需要見込みは306件で、ほぼ全国平均と同等と見込まれることから、一日も早い運用を目指し、関係者一丸となって、本県の高度救急医療搬送体制の構築にご尽力をいただきたいと思います。

ます。

一方で、ドクターヘリの運用にあたっては、最大の課題となる搭乗医師の確保のほか、基地病院である県立中央病院以外の各地域の拠点病院への患者搬送も想定されることから、各救急医療機関との調整、さらには、救急車とのランデブーポイントの設定、特に本県のような積雪が多い地域において冬期間のランデブーポイントの確保など、クリアしなくてはならない課題も山積しております。

今般の定例会知事説明要旨の中で、来年度に予定していたヘリポートの実設計を前倒しで進めるとともに、ヘリコプターの運航業者を決定するため必要な補正予算が計上され、できる限り早期の就航実現に努めると述べられました。

今後の運用に向けたスケジュールをどのようにお考えか健康福祉部長にお伺いいたします。

また、様々な課題に対して、今後、どのような取り組みを推進していかれるのか、併せてご所見をお伺いいたします。

※ランデブーポイントとはドクターヘリと救急車が待ち合わせる臨時離着陸場のことです。

答（健康福祉部長）

県では、本年3月に「ドクターヘリ導入に係る基本方針」を決定し、現在、導入に向けた取組みを進めているところであり、具体的には、現在、基地病院となる県立中央病院へのヘリポート設置などの基本調査を実施しており、今年度は、運航業務に係る委託事業者を決定するとともに、格納庫等の実施設計の前倒しを行うこととしております。

さらに、搭乗医師及び看護師の確保や実地研修、搬送先医療機関・消防機関との調整などを進め、就航開始まで

には、ヘリポート・格納庫等の地上施設の整備及び臨時離着陸場、いわゆるランデブーポイントの設定なども行う予定としております。

委員ご指摘のとおり、導入までに様々な課題を解決していく必要があることも事実であります。

①まず、最大の課題となる搭乗医師の確保については、県外からの救急医の招聘や救急の専門研修医の確保に全力を挙げるほか、県内の救急医療機関の病院長等の理解を得ながらDMAT医師の協力をいただくなど、あらゆる手立てを講じ、搭乗医師の確保に向けた取組みを展開してまいりたいと考えております。

②また、ランデブーポイントについては、消防機関や市町村と密接に連携を図りながら、県内各地に冬期間でも使用できる地点を含め、できるだけ多く確保したいと考えております。さらに患者の状態によっては、ランデブーポイントから基地病院以外の各地域の拠点病院へ一刻も早く搬送する必要があることから、関係機関と調整を図りながら円滑な搬送体制の確保などについても取組みを進めてまいります。

現在、第一次就航については、来年12月を目前にしておりますが、今申し上げた課題を一つひとつ解決していくとともに、今般の補正予算が可決された後は、速やかに運航委託業者を決定することとしております。これによりヘリ機体の調達や操縦士等の養成、実機による消防機関や医療機関との訓練など、個別具体的な作業スケジュールを詰めていくことが可能となりますので、その中で、さらに就航時期を前倒しできるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

※DMATとは、災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームのことです。

地域の声の具現化に向けて

寒河江市民の皆様から多く出されている要望箇所などについて、県及び市執行部の方々に現場の実情を知っていただくことにより、必要性を訴えられると考えております。今後も、現場主義に徹し要望の早期実現に向け頑張ります。



一般県道日和田松川線 道路改良（拡幅）（寒河江市慈恩寺～白岩隧道までの未改良区間）



沼川河川改修工事（寒河江市幸町 沼川橋付近）



主要地方道 寒河江・村山線 左折レーン設置（寒河江市西根地内 112号線交差点 びっくり市さん付近）



県道元町高屋線 歩道拡幅（若葉町地内）